

「平成 27 年度 教員免許状更新講習」

1 趣 旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2 事業の概要

(1) 期 日 平成 27 年 8 月 7 日 (金) ~ 9 日 (日) 【2 泊 3 日】

(2) 参加者 36 名 (島根県 28 名, 広島県 6 名, その他 2 名)

(3) 研修内容及び講師

講義①「学校教育活動と体験学習」 島根県教育センター指導主事 高橋 隆子

講義②「子どもの成長期における体験活動の重要性」

鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授 近藤 剛

講義③「自然体験活動の意義 (目的) と子どもたちへの効果」 (2 時間 30 分)

鳥取短期大学幼児教育保育学科准教授 近藤 剛

講義④「集団宿泊活動の現状と効果的な指導法」 (1 時間)

国立三瓶青少年交流の家事業推進室長 荒金 岳登

実習①「ねらいに応じた野外炊事の理解と実際」 (3 時間 30 分)

国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職 大隅雅浩・濱野健一

実習②「学級経営に活かせる体験活動の指導法」 (3 時間 30 分)

山口県防府市立富海中学校教頭 藤田 守弘

実習③「子ども達がワクワクする自然観察の技術」 (3 時間)

島根県立三瓶自然館「サヒメル」学芸課課長代理 井上 雅仁

履修認定試験 (1 時間 30 分)

日程

日付	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
8/7 (金)		受付 開校式	講義①	休憩	講義②	休憩	講義③			
8/8 (土)		講義④	実習①		休憩	実習②				
8/9 (日)		実習③		休憩	履修認定試験	閉講式				

3 成果と課題

《成 果》

- アンケートの結果から、この講習への参加動機として「以前参加した人から『よかった』と聞いたから。」また、「職場の先輩から勧められて。」という内容が多く見受けられた。そして今回も参加者の満足度が高かった。これは、各講義の内容の充実もさることながら、2泊3日の講習の中で、参加者

同士が体験活動を通して互いに新たな人間関係を構築し、結び付きを強めていく楽しさや良さを十分に味わうことができたからだと考える。

- ・アンケート自由記述欄に、「実習や演習を通して体験活動の重要性や意義を、身を持って感じた。」との記述が多数見られた。さらに、「2 学期からの学級経営に生かせる内容であった。」との記述もあり、この研修の所期の目的を果たすことができたのではないかと考える。受講者が学校現場で、この研修の成果を生かし、体験活動推進の中心として活躍されることを期待したい。
- ・今年度より、地元島根県教育委員会との連携で開催した。具体的には、講義①「学校教育活動と体験学習」【教育の課題に関する理解】において、高橋隆子氏（島根教育センター指導主事）を講師として招聘し、「学習指導要領や教育課程に関わる学校教育の現状と課題」についてご講義をいただいた。参加者の多くが島根県の教員であり、その中で国立の施設と島根県とが連携して事業を開催することは、今後島根県の子どもたちの体験活動を推進していく上で非常に意義深い第一歩であった。

《課 題》

- ・講義①と講義②の内容に重複が無いように、事前に高橋講師と近藤講師の打合せの機会をセッティングしようと考えたが、日程の調整が難航し実現できなかった。近藤講師には、一部講義内容が重複する部分を割愛するなどの配慮をしながら講義を進めていただいたが、来年度の開催に向け、主催者である我々が講師に何を求めるのか、内容をきちんと整理した上で講義を依頼していく必要があると考える。また、講義の題目と内容とにややずれがあることも、受講者から指摘された。この点も講師との打ち合わせの中で、整合性をとっていかなければならないと考える。
- ・本事業開催時期が夏季にあたるため、参加者から暑さに関する意見が寄せられた。講義は、できるだけ冷房設備のある研修棟で行ったが、一方宿泊棟に冷房設備がないため、就寝中は暑い中で過ごしていただくこととなった。実施時期については、教員の参加しやすいこの時期が適当だと思われるので、次回以降、暑さ対策等学習環境面での配慮、そして、本事業が自然体験活動をメインとしており、開催時期からも暑い環境の下での実施となる旨を事前に周知しておく等の案内面での工夫、ゆとりのあるプログラムの構成等運営面での対策を講じていく必要がある。

(担当：事業推進室長 荒金岳登)

